西原台の風

平成３０年度　第１０号（通算２９０号）
ー佐西学校だよりー
平成３１年１月３０日発行
〔発行責任者〕
長崎県立佐世保西高等学校長　　宅島健司

高校３年間をかけた１を大切にしたい

校　長　宅島　健司

年始の校長講話については、君たちは「井の中の蛙」ではいけないという話をしたつもりです。「課題が多い・勉強させられる」というのは当たり前の話です。１２月にも話したとおり、君たちの課題の量は、私が経験した長崎西高のある学年、佐世保南高のある学年の多く見積もっても３分の２程度しかありません。それぞれの学校のその学年の大学入試の結果は間違いなく、他の学年より抜きん出ていました。私が接してきた先生方の中にも「可哀そう」とか「主体的に学習ができない」などと話す先生もいました。私はいつも心の中でこうつぶやいていました、「大学受験で不合格になった方がよっぽど可哀そう」だと。不合格になった生徒がどれほど悔しいか。頑張れば頑張っただけ悔しいものです。それを見るのは、教職員として本当に辛いものです。私は課題を多く出さなければならないとは思いません。しかし、学習内容を定着させるためには課題が必須であると考えています。

主体的な学びは、大学入試の合格ラインを考えれば、学ぶことの意味が分かりかけたか、基礎学力が定着しなければ、意味をなさないと考えています。材料がなければ構築することも、工夫することもできないからです。あらゆる知識を総動員し、その知識や思考を交錯させながら問題の解答を導いていかなければならない大学入試においては、基礎知識及び基礎学力の定着は避けては通れません。それができて初めて、主体的な学びができるのではないかと考えます。材料があってこそ、思考を巡らし、掘り下げ、試行錯誤しながら、工夫し、構築することができるのではないかと思います。

文句を言う前に、自分がしなければならい、するべきことから逃げずに立ち向かい、習慣にすることが何より大切なことだと思います。受験は３年生がするものではなく、１年次から始まっています。難しいことをやれと言っているわけではありません。毎日３時間以上の勉強を習慣にし、それをしなければ落ち着かない、しなければそのことが気になって仕方がない、というほどになりなさい。と言っているんです。

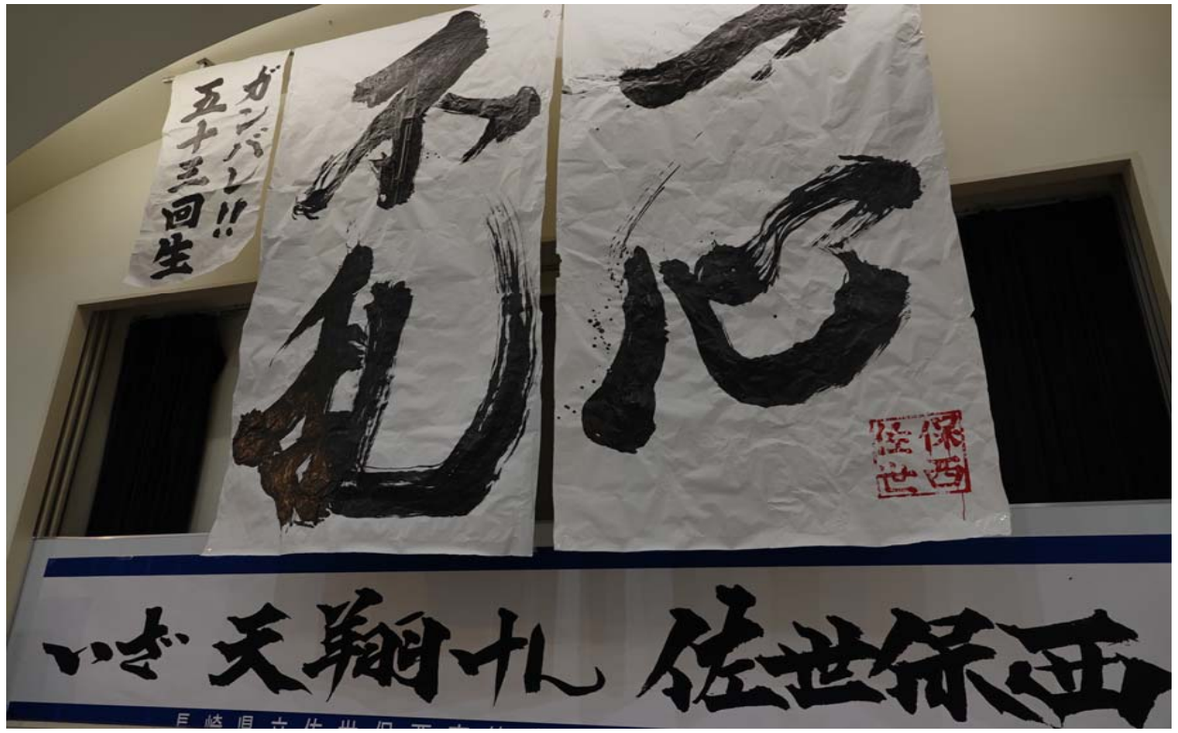
そのことが君たちの人としての成長につながると信じて疑いません。

ある年の３月・・・

長崎大学の合格発表の日、受験番号を知っていた学年主任が進路室のパソコンで結果を調べたところ、ある生徒の受験番号がない。担任が戻ってきてその知らせを受け、がっくりと肩を落とした。工学部受験者で受験番号がなかったのはその生徒だけであり、家庭の状況をよく知っていたからだ。しかし、担任はすぐにもう一度インターネットで確認し、その生徒の受験番号が他の学科にあることを発見した。それから再度学科変更での合格を確認した。

その生徒が１時間後、進路室を訪れた。「自分の番号を見つけた時、足ががくがく震えて止まりませんでした。」担任と学年主任と進路主任のそれぞれの両手をしっかり握りしめ、深々と頭を下げ、涙を流しながら感謝の言葉を述べた。

数を競っていると言われる。でもその数字の１については、その生徒の頑張り、費やした時間、悩み、苦労、焦り、プレッシャー等と、保護者の支え、不安、苦労、励まし、合格してほしいという思いと、教職員の費やした時間、努力、苦労、合格させたいという思いが含まれている。たかが１と言われる。しかし、その生徒の人生をかけた１を大切にする進路指導であり続けたい。



《２月の行事予定》

２	（土）	小論文セミナー（３年）、進研マーク（２年）、土曜講座、ハイレベル模試（１年）
３	（日）	進研マーク（２年）、ハイレベル模試（１年）
５	（火）	推薦入学者選抜
７	（木）	後期期末考査時間割発表
９	（土）	特別講座（３年）
１４	（木）	後期期末考査（１・２年　～2/１９ ）個人写真撮影（１年）
１５	（金）	個人写真撮影（２年）
１６	（土）	特別講座（３年）
２３	（土）	土曜講座（１・２年）
２４	（日）	第３回英検二次
２５	（月）	国公立大学二次試験（前期）（～２６日）
２８	（木）	同窓会入会式、卒業式予行、アニメ「めぐみ」上映（３年）

母の会支援活動

センター試験まであとわずかとなった１２月２０日（木)、母の会の皆さんにより、３年生と先生方にうどんが振る舞われました。ボリュームのある肉うどんと前日から心を込めて作っていただいたマフィンをいただきました。

寒い中でのあたたかいうどんは、心もあたたまり、生徒たちの「さあやるぞ！」という、センター試験に向け力強く立ち向かう心意気に変えてくれました。

母の会の皆さん，準備から後片付けまで本当にありがとうございました。

百人一首大会 （１学年より）

佐世保西高校恒例の「新春百人一首大会」が１月１０日(木)に開催されました。今年度は生徒が一から企画と運営を行いました。実施要項作成をはじめ、１学年の職員に本番で和歌の詠み手をお願いするなど、運営に携わった生徒が主体的に大会の準備をしました。また、皆が積極的に取り組めるように各クラスで「必勝札」を設定したり、英語科の担当職員が和歌の英語訳を読み上げるようにしたりするなどの工夫を行いました。本番では、生徒たちは「絶対に取られたくない札がここにはある」と言わんばかりの気迫を持って和歌が詠まれる声に集中していました。また、大会の中では「この歌はどの先生の好きな歌でしょうゲーム」と題した、生徒考案の企画も行われ、盛り上がりを見せました。「百人一首大会」は歴史の長い西高の恒例行事ですが、試行錯誤を繰り返しながら、伝統を引き継いでくれたと思います。企画・運営に携わってくれた生徒の皆さんに感謝します。

＜結果＞　<u>団体戦</u>

優勝　　２組、３組　（同点）

部活動の結果報告

＜書道部＞

平成３０年度長崎県高等学校総合文化祭書道展

特別賞　　山下栄理

新人賞　　平野友梨

特　選　　浦川優香、前田朋香、嶋田和夏菜、高田遥加、福田靖子

ベトナム研修旅行報告

今年で３年目となるベトナム研修旅行が１２月１０日（月）から１２月１４日（金）までの３泊５日（機内１泊）の日程で実施されました。今回は初めて学年全体が同じ日程で行動することができ、より一層学年全体のまとまりを実感できた研修旅行となりました。ベトナムの気温は３１℃で、日本を出発するときの気温が７℃であったこともあり、大変蒸し暑く感じられ、体調を崩す生徒も出るのではないかと心配しましたが、全員元気に５日間を過ごすことができました。今回の研修旅行で最も楽しみにしていたのが現地高校生との交流会です。今年は、ルンテービン高校との交流でしたが、開会セレモニーでは華やかなアオザイや現地の民族衣装に身を包んだ生徒たちの舞踊が披露され、熱烈な歓迎を受けました。その後はグループ交流で大いに盛り上がり、あっという間に終了時間が来てしまいました。この交流会が今回の研修旅行の中で生徒たちにとって最も印象に残るものになりました。研修旅行では平和学習と日系企業訪問にも取り組みました。戦争証跡博物館の展示物やクチでの戦争遺構を通して戦争の愚かさや悲惨さを痛烈に感じるとともに平和の尊さを再認識することができました。日系企業訪問は６つの企業（Emerald Blue、Watabe Wedding、PLUS、ススキベトナム、佐川運輸、ロンドゥィク工業団地）に各クラス分かれての研修となり、経済成長著しいベトナムの中で勢いのある日系企業の現状を肌で感じることができました。この研修で得たことを、これからの学校生活や進路選択の中で必ず生かしてくれるものと期待しています。最後になりましたが、保護者の皆様には、高額の費用にも関わらず、お子様の参加にご理解をいただき誠にありがとうございました。

～生徒の感想より～

ベトナムに行く前はとても緊張していました。去年のこともあり、不安もありました。まず、飛行機に乗って思ったのは「日本語が通じない」でした。当たり前のことですが、国内線の飛行機にしか乗ったことがなかった私にとって、日本語での説明がなかったり、緊急時の対応も日本語で聞けないのはとても不思議な感じでした。日本語さえできれば会話ができる環境にいた私は国際化が進んでいると言われても身近に実感することはありませんでした。でもちょっと飛行機に乗っただけで、日本語など通じず、世界共通言語は英語なんだと実感させられました。これは２日前にルンテービン高校へ行った時も強く感じました。同じ高校生とは思えないほどすごく英語が上手で初めて英語が話せないことを恥ずかしく思いました。そして言葉が通じない相手と話すときに何より大事なのは伝えようとする気持ちだと学びました。文法的に間違っていても、発音が少し違っても、一生懸命に知っている単語を並べて、身振りを加えて相手に伝えたいと思えば、相手も頑張って理解しようとしてくれました。もう一つベトナムに行って学んだことは、日本は恵まれているということです。ベトナムで最も発展しているホーチミン市でも街にゴミはたくさん落ちてるし、独特な臭いもするし、水道水は飲めないし、トイレットペーパーも流せません。逆に日本は田舎の佐世保でも公衆衛生は整っています。このことがどれほど素晴らしくて、ありがたいことなのか気付くことができたのはベトナム研修旅行に参加したからこそだと思います。日本では絶対に学ぶことができなかったことをたくさん学ぶとても良い機会だったと思います。